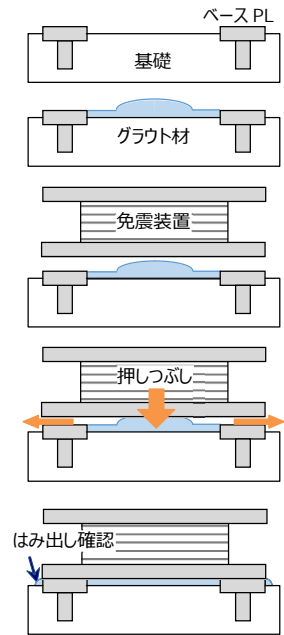


# 押圧充填工法®

品質の安定化・省力化・低コスト化が図れる免震装置設置工法

## 概要

免震装置は建物重量を支持する構造上重要な部分であり、免震装置と基礎の接続部分であるベースプレートの下面は、密実にコンクリートが充填されていることが要求されます。従来より実施されている「グラウト工法」や「高流動コンクリート充填工法」は、それぞれ工程や品質面で短所があり、特に現在主流である高流動コンクリートによる基礎の充填確認試験において、充填不良が散見されることから、それらを解決する工法の開発が望まれました。「免震装置押圧充填工法」は、通常の全面鋼板型ベースプレートに替えてアンカー部分のみリング状ベースプレート（ゲージプレート）を設置し、免震装置のフランジプレートとの隙間をセメント系充填材で押しつぶし埋めることで充填する工法です。施工法が単純で、またプレミックス材を使用するため、高流動コンクリートのような品質のばらつきに起因する施工不良がなく、品質管理方法も明確なため、免震装置の下部が確実に充填でき施工品質の向上に寄与します。従来の「グラウト工法」と比較して短工期・安価で、「高流動コンクリート充填工法」と比較して高品質・省力化が図れる工法です。



【免震装置押圧充填工法】

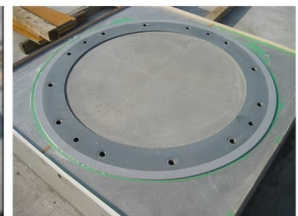
## 特長・効果

### 1. 確実な品質確保（高品質）

- 充填不良が発生せず高品質な施工が可能です。
- 充填材の全周からはみ出しにより目視で充填確認できるため、不良が発生した場合はその場でやり直しすることが可能です。



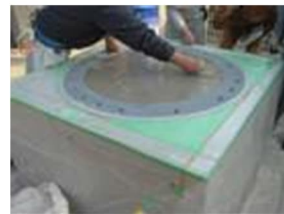
免震基礎



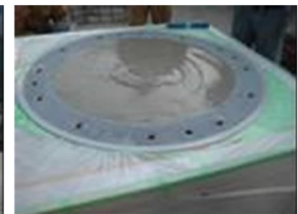
ベースプレート設置

### 2. 施工の省力化

- プレミックスタイプの充填材を使用するため、特殊な設備や器具が不要で、品質管理も容易なことから省力化が図れます。
- 通常の免震装置設置作業に加え、左官工1～2名程度の相番作業のみで施工可能です。



グラウト材ならし



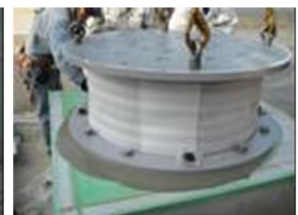
中央部を盛り上げ

### 3. 環境負荷を軽減・ローコスト

- 従来のベースプレートに比べ、板厚を薄くしてリング状にすることで鋼材量が低減できます。
- 高価な高流動コンクリートが不要で、材料ロスや残コン処理が少なく経済的です。
- 圧入設備やグラウト用型枠が不要で、工期短縮できます。



免震装置据付



はみ出し確認

【押圧充填工法の施工手順】

○社 技術研究所本館 テクノステーション



建物用途：研究所（事務所）  
構造・規模：S 造 地上 3F/塔屋 1F  
工期：2009 年 4 月～2010 年 8 月  
免震装置：積層ゴムアイソレータ  
φ800～1,100 16 基

- 他、適用件数 49 件 ※2024 年 5 月末現在  
(建物用途) 事務所、病院、工場、倉庫、データセンター、集合住宅 他  
(適用可能な免震装置) 積層ゴムアイソレータ、弾性すべりアイソレーター、  
直動転がりアイソレーター、球面すべりアイソレーター 等

## 主な用途

- 病院・公共庁舎・集合住宅・物流倉庫等、免震建物全般の免震装置設置に適用できます。  
(ただし、ベースプレートの設計変更を伴う場合があります)
- 特に倉庫・工場等の免震装置を多数設置する物件では、採用メリットが大きくなります。

### 【押圧充填工法をご検討の施工会社様へ】

押圧充填工法は特許工法です。  
株式会社特研メカトロニクスはライセンス契約により施工が可能です。  
(押圧充填工法は株式会社大林組の登録商標です)

(問い合わせ先)

株式会社特研メカトロニクス 免震技術部

TEL 03-5769-1677

弊社HP 問い合わせフォームよりお問い合わせください。

<https://www.tokken2002.jp/>